

心停止に電気ショック

民間救急車に搭載 伊賀



伊賀市消防本部と伊賀南部消防組合から「患者等搬送事業者」(民間救急)の認定を受けて

いる同市古郡の「北森レッカーサービス」上野営業所(北森浩貴社長)が、同社の4台目

の「患者等搬送用自動車」(民間の救急車)に、心臓まひなどの急患に電気ショックを与える

全自動式のAED(自動体外式除細動器)を新たに搭載した。17日に伊賀市消防本部で同車両の検査があり、認可を受けた。同社によると、民間救急でAEDを備えた車

民間救急の車両に搭載された自動体外式除細動器
伊賀市消防本部で

両は、県内で初めてという。

AEDは、心停止を起こした患者などに電気ショックを与えることで、正常な鼓動を取り戻すための機器。電極パッドを右胸と左脇腹に当てて電気を流す仕組み。

厚生労働省が医師法の解釈を変更し、昨年7月に各都道府県に出した通知で、医師が救急救命士に限られていたAEDの使用が一般にも拡大された。音声案内に従って操作する全自動の機器が普

及しているという。
北森レッカーサービス上野営業所は今月9日、10人の社員が伊賀南部消防組合でAEDを使った救命救急講習を受けた。従来搬送できなかった心臓病の急患についても、搬送が可能になる。

一方、伊賀市消防本部も7月中旬から、管内の7台の全部の救急車に全自動式のAEDを導入し、救命率のアップを図る。同本部は「1分1秒を争うことであり、今後は大勢の人が集まる施設などへの配備も望まれる」と話している。